第４回地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会

令和３年３月 15 日（月）
午前 10 時から 12 時まで
県庁別館８階第１会議室Ａ、Ｂ、Ｃ

次　　第

１　開会
（１）知事挨拶

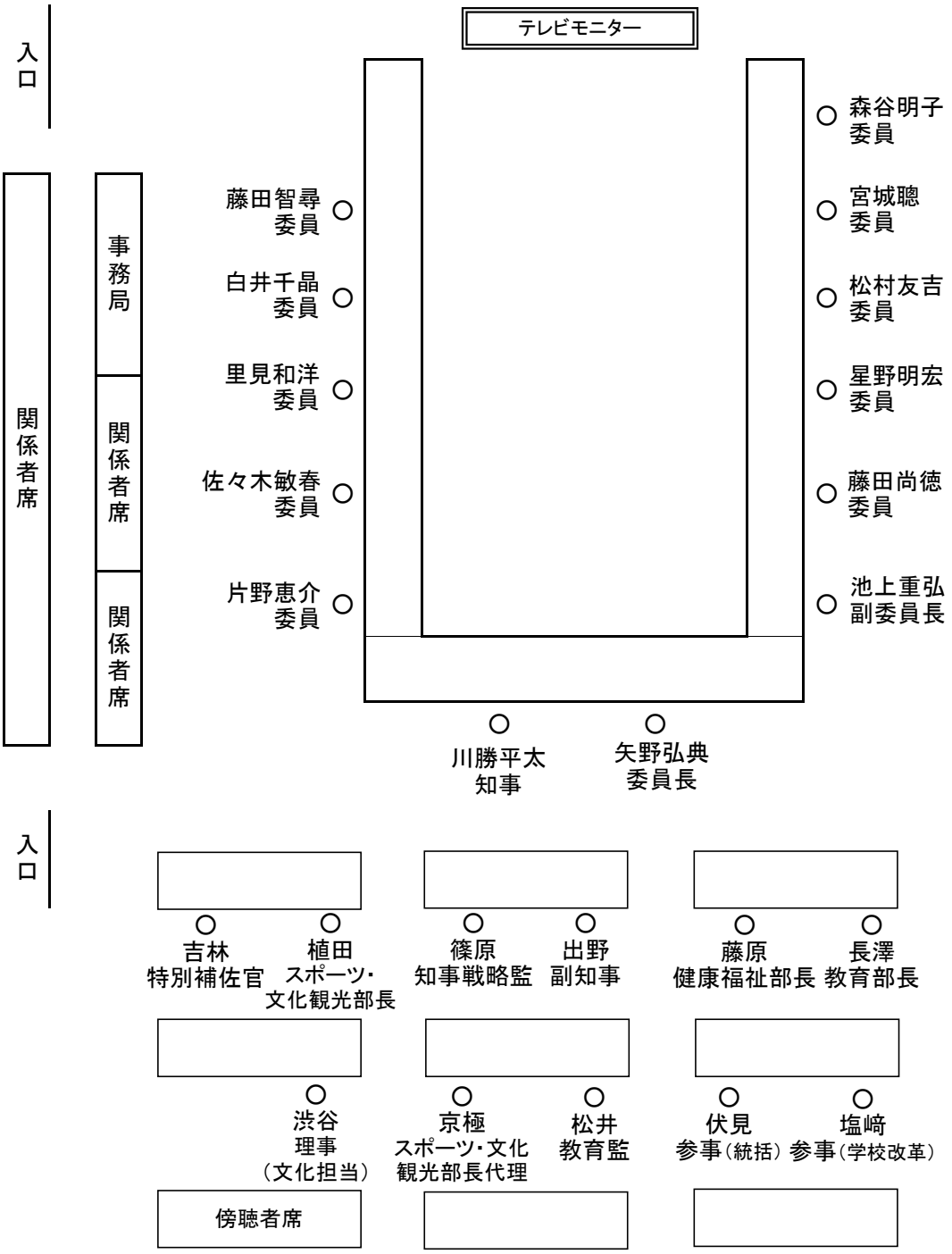
２　議事
（１）第３回静岡県総合教育会議開催結果の報告
（２）才徳兼備の人づくり小委員会最終報告
（３）本年度の実践委員会及び総合教育会議の議論を踏まえた意見交換
（４）その他

３　閉会

＜配布資料＞
資料１　　第３回静岡県総合教育会議開催結果
資料２　　新しい時代に対応した「高等学校教育の在り方」に関する報告（概要）
資料３　　新しい時代に対応した「高等学校教育の在り方」に関する報告
資料４　　令和３年度「才徳兼備の人づくり小委員会」の進め方（案）
資料５　　本年度の実践委員会と総合教育会議における主な意見
資料６　　令和２年度総合教育会議の主な成果
参考資料　総合教育会議での協議事項への対応状況等

第４回地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会　座席表

日時　令和3年3月15日（月）午前10時～
場所　県庁別館8階第1会議室A、B、C



地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会委員一覧

（委員長、以下 50 音順、敬称略）

氏　名	役　職	備考
矢野（やの）　弘典（ひろのり）（委員長）	（一社）ふじのくにづくり支援センター理事長	県庁
池上（いけがみ）　重弘（しげひろ）	静岡文化芸術大学英語・中国語教育センター長	県庁
片野（かたの）　恵介（けいすけ）	青年農業士	県庁
加藤（かとう）　暁子（あきこ）	日本の次世代リーダー養成塾専務理事、事務局長	欠席
佐々木（ささき）　敏春（としはる）	中部電力株式会社常務執行役員静岡支店長	県庁
里見（さとみ）　和洋（かずひろ）	(公財)全日本空手道連盟東京オリンピック対策本部副本部長代行兼統括責任者	県庁
白井（しらい）　千晶（ちあき）	静岡大学人文社会科学部教授	県庁
豊田（とよだ）　由美（ゆみ）	ちゃの生（き）代表	Ｗｅｂ
藤田（ふじた）　智尋（ちひろ）	静岡県立大学国際関係学部	県庁
藤田（ふじた）　尚徳（ひさのり）	株式会社なすび専務取締役	県庁
星野（ほしの）　明宏（あきひろ）	静岡聖光学院中学校・高等学校長	県庁
松村（まつむら）　友吉（ともよし）	株式会社いちまる代表取締役社長	県庁
マリ　クリスティーヌ	異文化コミュニケーター	Ｗｅｂ
宮城（みやぎ）　聰（さとし）	（公財）静岡県舞台芸術センター芸術総監督	県庁
森谷（もりや）　明子（あきこ）	日本画家、静岡ユネスコ協会常任理事	県庁
山浦（やまうら）　こずえ	NPO 法人ｷｬﾘｱ教育研究所ﾄﾞﾘｰﾑｹﾞｰﾄ代表理事	Ｗｅｂ
山本（やまもと）　昌邦（まさくに）	（一財）静岡県サッカー協会副会長	欠席
渡邉（わたなべ）　妙子（たえこ）	（公財）佐野美術館理事長	Ｗｅｂ

資料１

令和２年度　第３回静岡県総合教育会議　開催結果

（総合教育局総合教育課）

１　**開催日時**　令和３年１月15日（金）午後１時から３時まで

２　**開催場所**　静岡県庁西館４階第１会議室Ａ、Ｂ

３　**出席者**

静岡県知事	川勝　平太
教育長	木苗　直秀
教育委員	渡邉　靖乃
	藤井　　明
	伊東　幸宏
	小野澤　宏時
	後藤　康雄
地域自立のための「人づくり・学校づくり」実践委員会	
副委員長	池上　重弘

４　**議事**

（１）才徳兼備の人づくり小委員会中間報告

（２）未来を切り拓く多様な人材を育む教育の推進

５　**出席者発言要旨**

＜議題１：才徳兼備の人づくり小委員会中間報告＞

・360 度から課題に切り込み、かつ働く意義を検討した結果が出ている。今までの日本の教育が知識偏重型で、同質性を求める教育を行ってきた弊害が浮き彫りになったと改めて感じた。高等学校教育に関する検討であるが、小・中・高全ての学校教育に当てはまる内容となっている。

・現状をベースに課題抽出し、その中から全体をまとめていく手法をとっているが、10 年後、20 年後、50 年後にどのように世界が変わり、その世界で生き延びていくためにはどのような教育が必要になるのかというように、将来を見通した上で逆算して課題抽出する手法があってもよい。

・生徒と企業のアンケート調査では、教員の考え方や想い、捉え方が見えてこないので、余裕があれば切り込んでほしい。教員がどのような価値観を持っているのかをしっかり把握する必要がある。

・明るい未来を見せていただき、やりがいのある施策を多く提案していただいた。伊豆箱根鉄道沿線の高校の教員に対するヒアリング調査では、地域と学校が連携する上でコーディネーターの必要性が非常に高いことが分かった。教員には学校で求められている業務が多いので、地域と連携した学びをサポートする役割の人が必要である。ただし、予算立てや人脈、企業への依頼事項等の知識があるコーディネーターのような役割の人に支援を求める意見が多いので、県教育委員会としても、提案のあったコーディネート専門人材の配置・育成についてサポートとしていく必要があると強く感じた。

・キャリア教育は、職業観や勤労観のみを育む学習ではない。これからの子供たちには、不確実、不確定な世の中を生き抜く力が大事であり、職業観を通じてどのような生き方をしたいのかをしっかり考える教育が学校で広まっていくことが大事である。静岡県は交通の便が良く、在宅勤務が中心になってくると静岡県に住む人も増えてくるので、生き方を含めたキャリア教育が進んでくると静岡県が活発になると考えられるので、官民連携で進めていけばよい。

・地域社会に開かれた教育について、教員免許を持っていない民間のスペシャリストが学校で授業を行った際に単位認定はどうなるのかなど、実際に起こる問題について他県で実施される研究に参加するので、問題が見えてきたら報告したい。

・静岡県の高校生は首都圏へ進学した後、いろいろな事情で地元に戻ってこない。実家を離れて一人で武者修行することで失敗や勉強を通して人間形成ができていくので、地元に無理やり残るようにするのではなく、若者が静岡県に戻って来てくれる仕組みをつくることが大事である。

・静岡県の優秀な学生に対して、卒業後に地元の企業へ就職する代わりに奨学金の返済をその企業が支援することを約束する予約のような形にすると、学生はその企業に入るために勉強にも力が入り、企業にとってもプラスになるので、静岡方式としてトライしてもよい。

・コーディネーターをどこで探し、どのように育成していくかということが集中して考えていかなければならない課題の一つである。企業と一緒に高校生を育てる重要性が指摘されているが、企業を退職して後進の育成に関心のある人を探してみるのもよい。

・今の高校はいろいろな取組を熱心に行っているが、良い実践例が世の中に広く周知される機会が少ないので、既に取り組んでいる良い実践例を一目で分かるように紹介していくとよい。

・学校と地域を一人でつなぐことは難しいので、地域の側から発掘したコーディネーターと学校のことをよく知っているコーディネーターが二人三脚でつないでいく形ができるとよい。どういう人材をどのように育て、どのようにインセンティブを持ってもらうかということは、来年度の検討課題である。

・高校と連携した企業の社員がとても生き生きとしているという報告があり、連携の枠組みの中で企業側にもポジティブな影響がある。高校と企業の連携によるポジティブな成果を企業側から経済団体の集まりの中で発表する機会があると、企業にも高校と連携してみようという視点ができてくる。学校、地域、企業によるウィン・ウィン・ウィンの関係ができてくればとても豊かで幸せなことである。

＜議題２：未来を切り拓く多様な人材を育む教育の推進＞

・教える側の教員が価値観を変えなければならない。これまでの教育は横並びであり、均一性や同一性を求める教育だったので、そうした観点をリセットして出る杭をいかに多く作るかという教育に変えていかなければならない。

・芸術であってもスポーツであっても、とにかく多岐にわたって本物に触れる機会を多く生徒たちに与える工夫が必要である。

・情報機器や人工知能を駆使して基礎教育の効率化を徹底的に追求していくことで、教員の時間的・物理的・精神的な余裕が生み出されるので、その生み出された時間を生徒たちの個々の力を伸ばす教育に当てる工夫が必要である。

・学級、学年、学科、学校の種類、地域、公立・私立等の垣根を取り払い、類似する才能や同じような分野への興味を持つ生徒たち同士を幅広く交流させ、刺激を与え合うことで才能を伸ばしていくということが考えられる。

・特技や才能、興味を持っている生徒たちが、教えられるのではなく自ら考えて学ぶ時間を学校教育の中に単位として組み込んでいくような工夫ができれば、生徒たちを伸ばす大きなきっかけになる。生徒たちに自分を発見する機会をいかに多く与えるかが才能教育に欠かせないポイントである。

・県の取組で成績優秀者に対するプログラムは非常に充実しており、学力がある程度身に付いている生徒が自分で選んでいろいろなものに参加していく土壌は整っている。多様な人材の育成の観点からは、学力が高いことで参加できるプログラム以外にもっと多様なプログラムを推進していく必要がある。具体的に、「未来を切り拓く Dream 授業・賀茂版」の開催は、交通の便が良くない伊豆半島地域の子供たちが勇気付けられるので、オンラインであっても開催し、県内のあらゆる地域の子供たちが先進的なものに触れるチャンスを増やすことを考えてほしい。

・掛川未来創造部 Palette(パレット)は、地域の中学生が自ら脚本、演出、音楽を担当し、創造的で学校間を越えた活動をしている。地域の人材が芸術分野で支援しており、多様な活動として意義深い。全国からの評価も高い活動なので、県内全域の様々な分野に広がることを期待している。

・比較的大人しい子供たちにも活躍の場を持ってほしい。自分の夢や目標が持てず自己肯定感が低い生徒やまだ自己理解が必要な生徒は多いので、大まかな自分の在り方を認識しつつ、一つ一つキャリアを積み重ねて自分の居場所を見付けるようなプログラムも導入していけると、より良い教育に結び付く。

・自分で考えて自分で問題解決を図る子供を育てることが大事であり、そのためには何でも好奇心を持って実行に移すことで、自分で創り出していける力を持ってもらうしかない。自ら問題を見付けて解決する力を身に付けた若者が多く出てくることを期待している。知識だけではなく、人間としての魅力がなければ駄目であり、例えば、地域の偉人等について幼稚園や小学生の時から徹底的に勉強させ、それに関連して政治や経済等の知識を持たせることで、静岡の個性を出していく必要がある。

・高校が学校開放の拠点になっていけば面白い。健康増進で自分の体に興味を持った年配者向けの施設としてサポートしたいという企業が多い。教員ではない大人が学び続けている姿勢を見るのは子供たちにも良い刺激になるので、地域に対する学校開放の可能性が広がっていく。

・ユニークな試みを他の学校が真似て広げていくアクションが続いていかないとエネルギーの無駄遣いになる。先進的な試みを真似し合う環境づくりが必要であり、そのために事例をきちんと紹介するようにすることが必要である。

・多様な人材の育成については、議論よりも実践しなければならないフェーズに来ている。グローバル人材やバカロレアも議論は大事だが、きちんと行程表を作って実践していくフェーズに入るべき課題である。

・「未来を切り拓く Dream 授業」を受けた子供たちをつなぐオンライン会議を開催し、高校生になった今はどうなっているのか、どのようなことをやったのかということを共有したい。地域を越えて子供たちが互いに刺激し合う枠組みを柔軟に作ることができるとよい。

・少子化により部活動が成り立たず、３校で１チームという学校もある。指導者がいないところでは、バスで各学校を回って生徒を集めて活動する方法もあり、広まれば部活動から教員も外れることもできるので、静岡方式として打ち立てていけばよい。

・グローバル人材とは、海外との接点ということだけではなく、多様性を理解し受け入れることができる人材である。生きた外国語教育が違う文化や環境、価値観に触れる機会を多く与えることになるので、そうした観点から英語教育を徹底することでグローバル人材を育てるということを強力に推進したい。また、英語以外の第２外国語に触れる機会を多く与えることで、生徒たちの琴線に触れる感覚を呼び起こす機会が多くできると多様性との関連性が出てくる。

・静岡県には、ブラジル、ペルー、フィリピン、インドネシア、ベトナムなど多くの人がいる。例えば、学校でタガログ語やポルトガル語に触れる機会を持つと英語だけではない世界があることに気付くので、英語圏以外の言語や暮らしに触れる機会を持つことは大事である。静岡県は、地域の定住外国人や留学生といった人材を生かしていける。

・グローバル化は、ただ海外へ広がっていくという意味ではなく、根っこを持っていないといけない。自分の座標軸を持つため、静岡県民が共通して認識できるものを強く打ち出していく必要がある。また、次の時代の人たちは、20 年、30 年経ったら英語ではなく中国語が話せないと通じない時代になっていると思って変化していかなければならない。

・全寮制のインターナショナルスクールであってもバカロレアであっても、多様性の勉強の場としての高校を積極的につくっていくべきであり、そのためには知事部局と教育委員会が連携し補完し合いながら新しい高校の構想が実現していくことを望む。

６　知事総括

・会議で出た意見は、小委員会の最終報告に生かしてほしい。

・従来の習慣にとらわれず正しいと思ったことをできるところから実践していくということで、具現化に向けてそれぞれの執行機関で責任を持って速やかに取り組んでいくようにしていきたい。

「才徳兼備の人づくり小委員会中間報告」に関する実践委員会の意見

○ICT に関しては、生徒の知識やスキルが向上してきているので、**自主性や主体性を育む「才徳兼備」の人材を輩出するという意味では、早くハード面を整備して走り始めていくことを強く望む。**

○日本は、創造力を学ぶ教育が遅れているが、**生徒は主体的に行動するので、ICT をもっと使うことで、創造力を学ぶ機会を作ってほしい。**

○今の高校生は、自ら地域と結び付き、地域と一緒にまちおこしなどを行うエネルギーや企画力が優れ、ICT を駆使して外へ発信する能力もあるが、**意欲的な生徒とそうではない生徒との格差が問題であり、置き去りにされている子供たちをいかにやる気にさせるかが大事**である。

○国際化の面ではまだ格差があるので、英語をツールとして海外の生徒とディスカッションして、**更に新しい取組を英語で発言して連携していけるレベルまで静岡県でも目指していくとよい。**

○高等学校に関するニーズ調査の結果では農業に関する数値が低いので、**農業が盛んな本県において、農業と社会を結び付けて新しい取組ができるとよい。**

○自ら考えて行動する力を企業側は求めているので、**自ら考えてどう組み立ていくのかという力を身に付けられるような教育が小学校から必要**である。

○高校を卒業して社会に出る子供も増えてくるので、**いかに高校時代に社会活動を経験できるかが大事**である。社会経験がなく教える立場に就く人もいるので、アルバイトだけではなく、**単位化したりカリキュラムに入れたりして企業や社会で経験してもらえると見え方が変わってくる**ので、そこに重点を置く項目が入ってくるとよい。

○最終的な人づくりの方向性としては、自ら考え行動できる人材の育成は正しい方向である。**国が行おうとしている教育改革は正しい方向だが、授業や教員の教育の仕方が相当変わってくるので、県も国の流れに沿ってやるべき**である。

○企業側が即戦力を求めた結果、新人に高度なレベルを求めることになっているが、遠回りして教えるような無駄を排除した教育の中身が影響している。地域との関わりは、教員や学校にそのゆとりがないのが実情であるが、**生徒に何かきっかけを与えるためのサード・プレイスを地域の中につくり、そこに企業も参画し融合すれば、積極的な生徒と気後れしている生徒にある想いの格差を解消できる**のではないか。

○高校生や大学生は、魅力あるまちにある学校に行こうとしているのが実情であり、まちづくりが非常に大事である。**魅力あるまちづくりを行うと、そこにある学校や企業も光ってくるので、まちづくりと学校づくりが両輪で必要**である。

○**キーワードは、「地域との関わり」と「学校の経営」をどのように変えていくか**ということだと感じた。生徒が地域の企業や社会と関わりながら様々なことを経験していくことは重要だが、**校長も地域を理解するようになると他の教員にも影響を与え、教員も地域を理解すれば、生徒の活動しやすい環境が整う。**

○静岡県の高校生には失敗してはいけないという強い意識があり、それは高校生の周りに失敗した人がいないからである。**高校生には周りの人々に多様性があるように見えないので、多様な大人や生き方を中高生のうちに様々な形で見てもらえればよい。**

○美術館の展示では、説明を読んでから物を見るのではなく、先に物を見るようになってきている。それは、物を見ることによって、自分の感性を働かせて自分の判断をしたいという意識が芽生えてきたということであり、説明を記憶するのではなく、自分で見て感じたことを言葉に出すようになってきた。有名な画家だけの展示では人は来なくなり、**既成概念で物を見るという伝統が変わってきているので、どのように個々の感性を育成するか考えていく必要**がある。

○好きなことや得意なことに人生のチャンスがあり、部活動にはすごいチャンスがあるので、**部活動の指導に情熱を捧げたい教員に対して、授業のコマ数を減らしてその分を部活動の時間に移動するなど、部活動も授業として捉えて指導できる仕組みを静岡モデルとして作ればよい。**

○リモートは効率がよく便利で非常に重要であるが、コミュニケーション能力をどう鍛えていくかも重要な方向性であり、意欲や情熱をどのように育て上げられるかがポイントになる。失敗の多い人が成功も多くなるので、**子供たちにチャレンジさせる、挑戦させ続けることが大事であり、努力する習慣を身に付けさせることが学校のやるべき仕事**である。

○**子供たちは、人間らしい大人と出会い、魅力ある大人との出会いによって変わっていく**。学校の教育目標に合わせて、各学年で地域のいろいろな人の志を知り、自分の志を立て、その志を地域の人と実現させる取組を通じて、生徒たちが自分の志という芯をつくることができ、高校入学後に自分が活躍するというよりもマネジャーになる生徒が増えた事例があった。**生徒自身が地域の方と関わって、何がどう変わるかが重要**である。

○実際のリアルな社会と学びがどうつながっているか興味を持たせ、生徒がいろいろなことを経験することで、こういうことを学びたい、学ばなければいけないと変わっていく。**技術や資格に走りがちだが、どこに行っても通用する力という土台を身に付けることが大事**である。

○目に見えて成果が見える施策に目が奪われがちであるため、時間をかけて腰を据えて物事に取り組む研究に対しての理解を学生や社会人に対して伝えていかなければならない。人文科学の研究者には、すぐに結果は出ないが可能性を持った人がいる。そういうところにも人材が流れるように、**IT やその活用に関する研究もよいが、古典や昔からある研究等に対しての重要性を再認識する授業を高校や中学でも取り組んだ方がよい。**

○今までの学校教育の中にも自ら考え行動できる子供は育つ環境はあるので、**進学という一大イベントを自分の力で乗り越えるということまで導いて後押しすれば、受験を通して自ら考える力は十分付くはず**である。

○学校行事が縮小され、学校が進学学力にあまりにも傾倒しているので、**昔からやってきたことをしっかりやっていけば、自ら考え行動することは十分できる。加えて、総合学習が充実してくれば、静岡県の教育になっていく。**

○小委員会での議論を来年度も進めていただき、**熱心な方々のすばらしい御意見を伺い、実践委員会の意見として総合教育会議に反映していく形をつくりたい。**

議題

第３回総合教育会議　資料

未来を切り拓く多様な人材を育む教育の推進に関する論点

科学技術の発展やグローバル化の進展は、社会の在り方にも変化をもたらしており、ＩｏＴやＡＩをはじめとする技術革新の進展により、その変化はますます加速していくことが予想される。

このような社会においては、様々な変化や課題が生じると見込まれ、変化に適応するだけではなく、変化を受け止めて新たな価値を創造していくことが求められ、一人一人の状況に応じて、その力を最大限伸ばすとともに、才能や個性を発揮できるようにしていくことが重要である。

また、日本社会が抱える課題や地球規模の課題を自ら発見し解決できる能力や、地域が直接世界とつながる時代の中で、各地域においても国際的な感覚や視点を持って地域社会の創造・発展に積極的に貢献する人材の育成が必要である。

これらの課題に対応するためには、子供たちの個々の能力を伸ばし、未来を切り拓く多様な人材を育てていく必要がある。

論点１：才能を発揮する人材の育成

一人一人の能力、適性、成長に応じた多様な学習機会を提供し、個々の能力を更に伸ばしていくために、具体的にどのような取組が考えられるか。

【検討の視点】

・秀でた才能を更に伸ばすための教育の在り方
・一人一人の能力を伸ばすための学校教育や家庭教育の在り方
・個人に応じた多様な学習機会を提供するために必要な取組

論点２：グローバル人材の育成

グローバル化が進展する社会において、世界に貢献できる人材を育成するために、具体的にどのような取組が考えられるか。

【検討の視点】

・世界に貢献するために必要な、豊かな国際感覚、コミュニケーション能力、プレゼンテーション能力等の育成
・グローバル化に対応した教員の資質・能力の向上

「未来を切り拓く多様な人材を育む教育の推進」に関する実践委員会の意見

○持続不可能になりつつある状況に危機感を持って変革できる子供が最も必要なグローバル的に活躍できる子供である。**地域の困りごとについて、結果は出なくても取り組むところまでは総合学習でやってほしい。自分の進路や受験に関わらなくとも、変革と利他をポイントにSDGsを総合学習で進めていくとよい。**

○**才能を発揮する人材とグローバル人材の育成については、静岡県内の人たちだけで考えていても難しい。**国内の好事例を静岡県に当てはめるという発想では駄目である。例えば、ミネルヴァ大学の寮やイギリスのパブリックスクールを誘致するなど、**失敗してもよいので教育行政に関わる人のマインドセットを変えなければ、幾ら静岡に関わる人たちが話し合いをしていても縮小していくような政策しか出てこない。**

○全県下平等に実施すると大変なお金と時間がかかるので、例えば**トヨタによる裾野の未来都市の建設などに乗るのも一つのアイデア**である。

○グローバル人材の育成において、オンラインではできない生身の付き合いは大事だが、**新型コロナウイルス感染症の影響により、海外に生徒を送ることができないので、海外から優秀な高校生を農業高校などで受入れてほしい。**

○アジアの中ではイスラム教徒が多く、本県のようなクオリティ・オブ・ライフが高い地域で子育てし大学に行かせたいと考えているので、**海外から勉強するために来てもらうためには、欧米ばかりに目を向けずに、身近なアジアからすばらしい先生をたくさん呼べるよう環境整備をすると、本当の意味でのグローバル人材が育つ。**グローバル人材の育成について、海外から来てもらうものなのか、県民が頑張るものなのか明確にすべきである。

○限られた人数が限られた日数だけ海外に行き、リアルな体験を積むことはとても大事だが、高校生の頃から自分の言いたいことが言える、読みたいものが読めるぐらいの英語力を身に付けるためには、安いオンラインの英会話教室もある。できれば**小学校から、流暢な英語でなくても互いに通じ合えるような英語を毎週使うことが大事**である。**英語に触れていくことが優秀な才能を伸ばすことにつながるため、予算や仕組みの面で具体化をお願いしたい。**

○静岡にいても世界に貢献できるということを考えると、世界で活躍するために子供たちを育てるのではなく、**世界に貢献できる人材を育てていくという考え方にしなければ、優秀な人材はとにかく外に行きなさいということになり、遠くに行くことが目的で何が最終的な人生のゴールなのか見失ってしまう。**

○一人一人の才能は違っており、その才能を伸ばす時にどれだけの教員がその生徒に対して目を向けているかということが、その生徒の才能をうまく汲み上げるための大事な仕組みだが、**教員の多忙化により手が回っていない現状では、一人でも多くの生徒に目を向けられるような状況をどう作るかが非常に大事**である。

○週１・２回の語学では英語を話せるようにならない。最低でも毎日１・２時間は学ばなければ身に付かないので、**本当の意味でのグローバル人材を育てていくのならば、授業を完全に英語で行うことが重要**である。